

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------------|--------------|-------------|
| 事業所番号 | 4070801172 | | |
| 法人名 | 株式会社 ホームケアサービス | | |
| 事業所名 | グループホーム あおば | | |
| 所在地 | 〒813-0025 福岡県福岡市東区青葉7丁目13番41号 | 092-691-7921 | |
| 自己評価作成日 | 平成25年07月25日 | 評価結果確定日 | 平成25年09月24日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

原土井グループの施設で病院と連携のもと、健康管理に努めながら、入居者の皆様が毎日元氣よく、心地よく暮らしていただくために、何をすべきか日々考えながら介助を行っています。また、職員のスキルを上げるため内部研修・外部研修に積極的に参加しています。平均介護度は、3.0、平均年齢86歳。介護度や年齢により、一人ひとり身体面・精神面において様々ですが、月1度の外出、お誕生日会、合同レクリエーション、ボランティアの慰問などの行事を取り入れ、皆様に楽しみをもってただただけるように変化のある生活を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あおば」は、周囲にJR土井駅や大型スーパー、神社、お寺等に囲れ、自然が残る環境の中に、2階建て1階部分のグループホームである。相撲部屋として使用された建物は、全てが大きく、改築を繰り返し現在の家庭的な雰囲気のあるホームに変身し、地域の認知症高齢者が、暮らし続けるための、介護サービスを提供し、利用者や家族の信頼は深いものがある。運営推進会議を中心に、民生委員の力強い応援と、情報提供で、利用者や職員は、行事や公民館活動に積極的に参加し、ホームの行事にも、家族と住民が参加し交流が始まっている。今年2月に管理者が交代し、利用者や家族との関係も良好で、なんでも話し合える雰囲気がある。また、運営推進会議には、8名の家族が参加し、意見や要望が出され、出された内容をホーム運営に反映させて、地域福祉事業の拠点を目指す「あおば」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------|--------------|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 | 093-582-0294 | |
| 訪問調査日 | 平成25年08月28日 | | |

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|---|---|---|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 誰もが目にするように壁にはりだし、ミーティングで確認し、実践できるよう努めている。 | 「家庭的な環境と、地域との交流の下、一人ひとりを大切に温かい介護に努める」というホーム独自の「理念」と「5つの目標」を目に付きやすい場所に掲示し、職員ミーティングや申し送り時に確認している。管理者と職員は、理念や目標を念頭に置き、日々の介護サービスの実践に努めている。 | |
| 2 | 2 | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域のボランティアの方が演芸披露に来て下さったり、散歩でお会いしたご近所の方々といさつを交わしたり、声をかけてくださったりしている。 | 町内会への入会や民生委員の協力等を通じて、地域情報の把握に努めている。併設の障害者施設や系列の介護施設との平素からの交流により、避難訓練や行事等で連携し、協力関係が築かれている。また、日常的な散歩や買い物に出かけ、挨拶を交わし、話したりして、近隣の方々とは触れ合う機会が多い。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通じ、民生委員等地域の方、ご家族と認知症についてや支援の様子を語っている。 | | |
| 4 | 3 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者の状況報告、活動状況報告を行い、評価、要望、意見を頂いている。運営推進会議で頂いた意見は次回の取り組みや、施設での改善に活かしている。 | 会議は2ヶ月毎に利用者と家族、民生委員、行政関係者、系列の介護施設職員の出席で開催し、ホームの実情や課題等を報告し話し合いを行なっている。会議では利用者や家族の出席が多い関係上、身近なテーマが取り上げられることも多く、活発な意見交換の場となっている。出された意見や提案を検討し、ホーム運営に活かす取り組みを行っている。 | |
| 5 | 4 | 市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域包括支援センター職員との連携を図り、施設の状況や取り組みを伝えている。 | 運営推進会議に行政職員や民生委員の参加があり、ホームの運営状況やサービス内容についての理解が得られている。また、困難事例を相談し、行政からのアドバイスを貰う等、普段から行政と、協力関係を築くように努めている。 | |
| 6 | 5 | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中は玄関は開錠しており、自由に入出ることができる。身体拘束のマニュアルや外部研修で修得したことを共有し、身体拘束防止委員を立てて日々の介護で身体拘束が行われてないか等ミーティング時に見直しを行っている。 | 身体拘束防止委員会が中心になって、マニュアルの整備や研修の実施等に取り組んでいる。職員ミーティングや日々の活動のなかで、身体拘束について意識づけを行ない、玄関の鍵を含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。一方で、利用者の重度化傾向や認知症状の進行等で、意思疎通が困難な状況の中で、抑圧感のない暮らしの実現のための、「言葉かけ」や「スピーチロック」について、徹底を図る取り組みを検討している。 | 身体拘束防止委員会を定期的で開催し、スピーチロックが、利用者に与える影響について、徹底的に指導し、利用者が、安全に安心して、穏やかに暮らせることを願いたい。 |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内部・外部研修やミーティングなどで意識づけを行い、虐待をしない、見過ごさないよう防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修への参加や、内部研修の実施により成年後見人制度について学ぶ機会を設けている。 | 現在、成年後見制度を活用している利用者がおられ、管理者と職員は、制度利用の支援を通じて権利擁護制度の役割及び必要性等について理解を深めている。また、内外研修の機会を設け、積極的に参加している。利用者や家族からの相談時には、いつでも支援できるように資料やパンフレット等が準備され、説明や関係機関に橋渡しできるように支援体制が整っている。 | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用契約書、重要事項説明書を基に十分な説明を行い、不安や疑問の無いよう、また問い合わせには丁寧に対応するよう努めている。 | | |
| 10 | 7 | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者・家族が意見を言い易い環境を整え、外部評価のご家族アンケート、来訪時や運営推進会議時などに出た意見・要望は大切に受け止め反映するよう努めている。また、意見箱を設置し、自由に意見を表せるようにしている。 | 運営推進会議や行事、面会等を通じて家族との交流を図る機会は多い。家族の意見や要望については、職員ミーティング等で検討し、ホーム運営に反映するように努めている。遠方の家族には定期発行されているホーム便りを郵送し、利用者の近況を報告している。家族との交流を目指した、家族会設立の取組みを検討している。 | |
| 11 | 8 | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員や職員や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は、ケアカンファ、ミーティングやヒヤリング等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、事業所の運営、業務、介護等に活かすようにしている。必要時は管理者が代表者に報告し、意見を反映させている。 | 毎月開催している職員ミーティングの場や個別のヒヤリングを通じて、職員の意見や提案を聞き、ホームの運営に反映させる取組みを行なっている。職員ミーティングでは、懸案事項の検討や勉強会、ケアカンファレンスも併せて実施され、活発な意見交換の場となっている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は、管理者を通じて職員個別の面談を行い職員それぞれの目標を把握し、目標や状況に合わせた研修の機会を設け各自の向上の手助けを行っている。本人の努力次第で評価を行い、状況の改善ができるよう努めている。 | | |
| 13 | 9 | 人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の募集・採用に当たっては、性別・年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、入社後は自己能力を發揮し、社会参加、自己実現の場として勤務できる事業所づくり、雰囲気づくりに配慮している。 | 職員の募集や採用については、年齢、性別等の制限はなく、採用後は、経験年次に応じた教育研修、資格取得へのバックアップ体制が整っている。各種委員会に参画することで、各自の能力發揮に取組む体制が整っている。また、勤務シフトを柔軟に配慮し、生きがいをもち、安心して働ける職場環境の実現に取り組んでいる。 | |
| 14 | 10 | 人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 外部・内部研修にて啓発活動を行っている。 | 利用者の人権尊重については、ホームの理念や基本方針に、明確に位置づけられ掲示されている。管理者と職員は、お互いに注意喚起を行い、利用者本意の支援を確認している。また、市が主催する人権研修に参加し、伝達研修を行ない職員に対する人権教育、啓発活動を行なっている。今後は、理念と5つの目標について内部研修を予定している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修に積極的に参加するよう推進し、参加した職員が研修発表を行ったり、知識、情報を全職員で共有している。また、内部研修では担当が講師をして全職員でスキルアップをめざしている。 | | |
| 16 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福岡県高齢者グループホーム協議会の活動や他事業所の運営推進会議へ参加する等してサービスの質の向上に努めている。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居の面接、入居前に本人の希望、要望等を可能な限り聞き取り安心できる環境づくりと信頼関係づくりに努めている。 | | |
| 18 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス開始前に、家族の要望・希望を理解したうえで、家族と一緒に考えながら不安を解消できるよう信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 19 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居する前、事前に生活状況の聴き取りや面談をさせていただき、今現在何に困っているのか、何が必要なかを把握し、初期サービスの導入に活用している。状況によっては他のサービス利用の情報提供も行っている。 | | |
| 20 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 役割づくりを通しご本人が生き生きと過ごしていただけるよう心掛けている。 | | |
| 21 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族と一緒に支援することを心がけ、面会時や必要時の電話連絡等で報告・連絡・相談を随時行い関係づくりに努めている。家族に本人の状態を知って頂き、気分転換のための外出や面会・通院等をお願いしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | 11 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族に支援をお願いし外出や面会等でなじみの関係が途切れないよう努めている。 | 職員は、利用者のこれまで大切にしてきた馴染みの関係が継続していけるように支援し、知人、友人の訪問時での配慮や支援を行なっている。また、正月、お盆、墓参等の外出や外泊で、家族と過ごされる支援に努めている。今後は、ホームを中心とした、利用者同士の関係や系列の介護施設利用者との、新しい馴染みの関係づくりにも、取り組んでいくことを検討している。 | |
| 23 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お互い助け合ったり話ができるような雰囲気づくりを心がけている。またお手伝いを複数の入居者が一緒にできるよう設定したりレクリエーションに誘うなど孤立を避ける声掛けを行っている。 | | |
| 24 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用後も、気軽に訪問して頂いたり、相談ができるよう声掛けしたりしている。 | | |
| 、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 今までの暮らし方を継続できるように、各人の好みや思いを大事に考えケアの方向性を常に検討している。 | 認知症が重度化し、利用者の、意向確認が困難な状況にあるが、日々の生活の関わりや、ベテラン職員の経験を活かし、利用者一人ひとりの、暮らしの希望や思いに、近づく努力をしながら、常に寄り添う介護を目指し、利用者の思いや意向の把握に取り組んでいる。 | |
| 26 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人・家族を中心に(担当ケアマネージャー・ソーシャルワーカー等関係者も含め)情報を集め、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | | |
| 27 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 24時間シート、介護記録、申し送り等で一人ひとりのその日その時の状態の把握に努めている。また、様々な作業やレクリエーション等を通して本人のできることを見極め、日課や日中の活動に反映させている。 | | |
| 28 | 13 | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族には状態の変化の際や面会の際に報告・相談を行い、また必要があれば主治医を含めた面談も行っている。ケアプランの作成の際はミーティング・ケアカンファ等で検討を行っている。 | 介護計画は、利用者や家族の要望を聴き取り、関係者が出席するサービス担当者会議において作成している。見直しは3ヶ月毎に実施されている。また、利用者の状態変化や介護認定時には、その都度、カンファレンスが行なわれ、現状に即した介護計画を作成している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録・申し送りで情報を共有し見直しの際は会議に必ずかけるようにしている。また、気づきや工夫については即、試してみてその結果を見直しに反映するようにしている。 | | |
| 30 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族では難しい通院介助や必要に応じた買い物代行を行い、入居者・家族の希望があれば散歩等の外出同行も行っている。また、本人や家族に多様な意見・要望を気軽に話して頂き、日常の介護に活かせるよう努めている。 | | |
| 31 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議などを活用し地域資源の状況把握に努めている。また、地域で一緒に買い物をしたり、外食をするなどして日常生活に楽しさが持てるよう心掛けている。 | | |
| 32 | 14 | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族が安心して過ごせるようかかりつけ医とご家族・職員で面談を行い適切な医療が受けられるよう支援している。 | 受診は、利用者や家族の希望するかかりつけ医となっていて、定期的な訪問診療が実施されている。眼科、皮膚科等の専門医受診は、家族と協力して受診支援を行ない、訪問歯科診療も実施されている。緊急時の対応は、看護師によるオンコールや協力医療機関と連絡を取り、24時間安心出来る医療連携体制が整っている。 | |
| 33 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職には日々の観察で気が付いたことを看護師に報告している。看護師は状態に応じ主治医に報告し適切な受診・看護につなげている。 | | |
| 34 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は病院関係者へ情報提供を行い、できる限り面会に訪れ、入居者が安心して過ごせるよう努めている。面会の際は病院関係者に状態を尋ねるなど情報交換に努め早期の退院をお願いしている。 | | |
| 35 | 15 | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 事前指定書にて確認を行うとともに主治医との連携のもと早い段階からの説明を行っている。また看取り期と主治医が判断した際は主治医立ち会いで看取りケアの説明及び同意書の作成を行っている。 | 入居時に、重度化や終末期に向けた方針と支援のあり方について意思確認書を基に説明を行ない、利用者や家族の承諾を得る取組みをしている。また、本人の状態変化の推移を見ながら、早い段階から家族や医療関係者、職員で連携を取り、その都度、意思を確認しながら関係者で方針を共有している。過去には看取りの実績がある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------------|----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は救命救急の講習を受け、市より急マークの交付も受けた。 | | |
| 37 | 16 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時、地域との協力体制がとれるよう地域の方にも火災訓練の様子を見て頂いたり、入居者の状況をお伝えしている。 | 消防署の協力を得て、併設の障害者施設と連携した避難訓練を年2回実施している。夜間想定も含む、非常災害時の備えとして、マニュアルの整備、食料、飲料水の備蓄や非常持ち出し品等の準備も行なわれている。現状の取組みとして、系列の介護施設や、地域の協力を得て避難訓練の参加をお願いし、協力関係の構築に努めている。 | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇や権利擁護の研修会で学んだことを活かしたケアの実践に取り組んでいる。一人ひとりの人格やプライバシーに配慮した声掛けを心がけている。 | 管理者は、職員に、誇りやプライバシーを損ねるような「言葉かけ」をしないことの徹底、「言葉の内容」や「語調」等に注意し、年長者としての敬意を払った支援を目指し、日常的な確認をホーム全体で取り組むように努めている。また、個人情報の保管と、職員の守秘義務の徹底も図られている。 | |
| 39 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人が自己表現・決定をできるような職員の対応を心がけている。また、利用者の思いを記録に残し思いに沿った決定や介助ができるよう努めている。 | | |
| 40 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日その時の本人の気分や体調に合わせて、できるだけ本人の意向に沿った生活が送れるように支援している。 | | |
| 41 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 洋服はできる限り本人に選んでいただいている。また、訪問理美容でカットやメイクの対応も行っている。ご希望の方には職員がマニキュア等も塗って差し上げている。 | | |
| 42 | 18 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの食事の摂取量や形態、食べ方、好み等を知り、栄養バランスを考えたり、旬のものをとりいれたりして美味しく食べて頂けるよう工夫を行っている。また調理の下ごしらえ、テーブル拭き、下膳、片付け等を一緒にやっている。 | 食事が楽しみになるように、旬の食材、彩り、味付けや栄養バランスなどに工夫を凝らしている。また、介助が必要な利用者には、時間にとらわれない支援が行なわれている。利用者と職員が同じテーブルで、共に食事をしない、家庭的で和やかな食事風景である。食事の準備や後片付けなど、出来る範囲で利用者と職員が一緒に行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事は本人にとって食べやすい形態を心がけ、職員が見守り、声掛けを行う。また食事量、水分量の記録を取り一定量の確保を心がけている。 | | |
| 44 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時、毎食後口腔ケアを行っている。介助が必要な入居者には職員が付き添い、できない部分を介助している。希望者には歯科による居宅療養管理指導も行っている。 | | |
| 45 | 19 | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表をつけ、一人ひとりの排泄リズムや特徴の把握に努め、お試し評価表の活用やケアカンファ、ミーティング等での話し合いを重ね、おむつの使用や失敗を減らせるよう検討し、その人に応じたトイレ誘導や声掛け等を行っている。 | 利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣に基づいて、自立に向け、トイレでの排泄を目指した支援を行っている。また、個別のケース検討をもとに、早めの声かけや誘導を行い、排泄の失敗を防ぐことにより、利用者の自信回復に繋がる排泄支援に取り組んでいる。 | |
| 46 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便チェック表を活用し、水分摂取量や排便状況を把握している。野菜を多く取り入れた献立の提供、ヨーグルトや牛乳の摂取、運動の声かけを行っている。 | | |
| 47 | 20 | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 曜日は限定せず、時間帯は10時から15時半の間で入浴できるようになっている。 | 利用者の体調や希望に合わせて、週2～3回の入浴支援を行っている。浴場は広く、開放的な入浴環境となっている。また、利用者の身体機能低下により、半機械浴装置や、シャワーチェア等を設置し、利用者や職員の負担軽減に繋げ、安心して入浴が楽しめる支援に取り組んでいる。 | |
| 48 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 今までの習慣を重視し自由に休息して頂いている。意思疎通が難しい方は体力や状態に合わせて午睡して頂いたり、同じ姿勢を取り続けることのないよう座り替えの介助を行っている。 | | |
| 49 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 看護師による薬の内部研修を行っている。また服薬に関する注意点については申し送りノートにて行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者の持っている力を考慮しお手伝いをお願いしている。また、外出、合同レクリエーション、行事等を行い、楽しみや気分転換の機会を設けている。 | | |
| 51 | 2.1 | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 季節や行事に応じた外出の機会の提供、個別の希望に合わせた散歩等の提供を行っている。故郷に行ったり親戚との交流の継続ができるように家族に協力をお願いしている。 | 利用者の重度化が進む中で、全員での外出が、困難になりつつあるが、出来るだけ戸外での活動が出来るよう支援している。天気の良い日を見計らって、ホーム周辺や近くの公園までの散歩を日課としている。また、季節の行事を通じた外出支援等、家族の協力を得ながら積極的に取り組んでいる。 | |
| 52 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の所持を希望される方には少額だがもって頂いている。 | | |
| 53 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話を希望される方にはホームの電話からかけて頂いている。また、日記を書いていた面会時みていただく支援も行っている。 | | |
| 54 | 2.2 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングは通年、快適に過ごせる室温・湿度と換気に努めている。リビングのボードに行事や外出の写真を貼り、楽しんでいる。 | 利用者が多くの時間を過ごす共用の場所は、以前、相撲部屋であったこともあり、ゆとりのあるスペースと高い天井が特徴的である。2年前に改装が行なわれ、現在では使いがってのよい共用空間となっている。壁面には、利用者の笑顔の写真が飾られ、微笑ましい情景となっている。テレビを見ている人や、職員と談笑しながら洗濯物をたたんだり、利用者一人ひとりの時間を、有意義に過ごしている。 | |
| 55 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 個々に思い思いの場所があり、落ち着く空間で自由に過ごしている。 | | |
| 56 | 2.3 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に今まで使い慣れた物や思い出の写真等を持ち込んで頂いている。本人、家族の意向を大切に特に危険がなければ自由にレイアウトし居心地のよい空間にしている。 | 利用者が、入居前に使用していた馴染みの家具、調度品や家族の写真等が、家族の協力で持ち込まれ、自宅と違和感のない雰囲気配慮されている。各部屋とも利用者の個性が感じられ、整理整頓が行き届き、清潔で安全な居室である。 | |
| 57 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室に名札を掲げたり、トイレの表示を行い、わかりやすいようにしている。共用部分に手すりを設置し、安全で自立した生活ができるようにしている。 | | |